

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	39	大学等名	お茶の水女子大学
テーマ	テーマⅢ（入試改革）		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、新フンボルト入試にのみ焦点を当てた場合、本事業は申請時の計画をおおむね遂行したと言えることから、事業開始年度から続く一連の取組は十分評価できる。しかし、新フンボルト入試のみの新設では、新フンボルト入試に合った学生が合格し、合わない学生は別の入試で合格し、全体として見れば、従来と同様の受験生が受験・合格・入学している、ということにもなりかねない。このような事態を避けるため、引き続き全学的な入試改革を進めていくことが期待される。

事業の具体的な取組の進捗状況については、多面的・総合的な入試の実施、高校等との意見交換、成果を踏まえた取組の改善、入学前教育及び初年次教育の改革の観点から、各年度の計画に基づき着実に事業が実施・進捗され、目標の達成状況に関しても、全ての指標について目標値を達成していることから、十分評価できる。特に合格者全員に上級生をチューターとして配置して行う入学前教育は、他大学等の参考になるものである。また、中間評価時に留意事項として付された業務の効率化についても、従来2日間としていたプレゼミナールを、令和元年度以降は内容を落とさずに1日に凝縮して実施することができたことなど、適切に対応し効率化が進められていると評価できる。

事業定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、中間評価において補助期間終了後も新フンボルト入試を継続・発展するための財源確保が大きな課題として挙げられていた。この点について、新フンボルト入試で不合格だった受験生が当該大学の他の入試に再挑戦し入学しているという成果や学内での丁寧な周知及びコミュニケーションにより、AO入試（総合型選抜）の実施運営、評価分析を中心業務とする任期制講師を令和2年度より学内経費にて雇用し、今後の入試改革推進の中核を担ってもらうとともに、新フンボルト入試運営経費についても学内から必要額を措置し、補助期間終了後も継続的かつ安定的に入試改革事業を推進する体制を全学的に整えることができたことについては高く評価できる。

事業成果の普及については、マスコミや受験関連企業からの取材対応及び大学関係者からの訪問調査対応について、大変丁寧に取り組んできたことから、先駆的なモデルとして周知してきた点について評価できる。また、幹事校の企画への参加や合同シンポジウムへの出席など、本事業における取組の意図、制度設計、そしてその成果の報告を行ってきた点も評価できる。一方で、その成果普及については、受動的であるようにも見受けられ、先駆的なモデルを波及させる手法を自ら開発し、計画をもって進める、という点については、積極的に取り組んできたとは必ずしも言えない。本事業で生まれた課題等の周知も含めて、日本の高等教育全体へのインパクトを追求することが一層望まれる。